

# 校長室通信



南小国町立南小国中学校

令和元年 11 月 1 日 (金) No24

文責 狭間卓史



## あたたかな場所

10月16日(水)、本町の「きよら祭り」が開催され、本校生徒・職員全員で参加させていただきました。

様々な企画のステージ発表があり、本校吹奏楽部の出番もありました。その演奏に合わせた三年生応援隊の歌や、その後の大縄大会等々。

演奏や歌はもちろんのこと、生徒の大縄大会にも会場中の方々からのたくさんの手拍子をいただきました。会場あちこちに咲く笑顔と温かな空気に包まれて心地よい時間を過ごさせていただきました。

また、市原小運動場の会場には様々な飲食店も出店していましたが、その中には本校清流寮のお店もありました。寮の保護者会の皆さん方の全面的なバックアップを受けて寮生も販売体験をさせていただきましたが、時間が経つにつれてお客さんを呼ぶ声も大きくなり、ほほえましい姿でした。つくづく幸せな生徒たちだなおもえたひと時でした。



【心を込めて】



【華やかに】



【可憐に】



【軽やかに】



【感謝】



【息もぴったり】

## 10年後の未来

10月8日(火)、本校体育館に枝廣淳子氏(東京都市大学環境学部教授)をお招きしワークショップを開催しました。この日は「10年後の南小国町」というテーマで、近い将来の南小国町がどのような町であってほしいのか、本校生徒がどんな町を創っていきたいのかを考える機会でした。

10年後には本校生徒は23歳~25歳になっています。魅力一杯の本校生徒が大人になった頃のこの南小国町がどんな町になっているのか、そして、どんな人に成長しているのか楽しみでしかありません。



【枝廣淳子氏】

## たすきの力

10月18日(金)、郡市中体連駅伝大会が阿蘇市農業公園陸上競技場(あぴか)にて開催され、本校からも男女それぞれに1チームが参加しました。当日は時折横なぐりの冷たい雨が降り、コースのあちこちに水が浮く厳しいコンディションでした。駅伝は一本のタスキをつないでいくがゆえにチームとしての力が問われます。自分一人で走るのならば諦めてしまいたくなる状況でも、つないでくれた仲間への思いと、つながなければならない責任感がその背中を押してくれます。この日の本校生徒も時折タスキを握りしめながら必死に走る姿が心に残りました。



【思いをつなぐ】

また、中継所では補助員として参加してくれた生徒も活躍していました。自分の出番を待ち緊張感に押しつぶされそうな生徒を和ませたり、走り終えた生徒を優しくねぎらったり、「チーム南小国中」として全員で頑張れた大会でした。コース脇から熱い声援を送り続けてくださった保護者の皆様方にもあらためて感謝いたします。

## 堂々と

10月24日(木)、阿蘇青少年交流の家を会場に「阿蘇郡市英語暗唱大会」が開催され、本校からも総勢11人(3年生三人、2年生四人、1年生二人、引率二人)で参加しました。引率した高宮教諭とサラALTと共に、放課後や昼休み等々、各々が限られた時間の中で練習を重ねての参加でした。発表した9人の堂々としたその様子については、27日に開催しました「南中文化の日」でもご覧いただいたとおりです。立派な本校代表の姿でした。



【堂々と】